

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp 谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

農地がつながる人と人

「私たちの町のどんなところが好きですか」と聞かれて、「緑が身近にあるところ」と答える方は多いと思います。身近な緑のひとつに「農地」があります。今回はその農地を、地域づくりに生かそうと日々取り組む方々に取材しました。

農地が居場所になる

西東京市内の畑で、デイサービス「お散歩の日常」のおとなりさん。の利用者の皆さんと介護スタッフと一緒にピーマンを収穫しています。「これはもう食べられるね」「あら、ピーマンの花。かわいいね」と会話が弾み、どの人も思い思いに畑でのひと時を楽しんでいます。

「デイサービス」おとなりさん。を運営する岩崎智之さん(36歳)は、「種まき、草取り、収穫」と、農作業にはいろいろあるので、体の不自由な人や認知症の人にもできることがたくさんあります。ありがとうございます」と、農作業の効用を実感しています。そして「子どもからお年寄りまで様々な人々が集う居場所として、農地をもっと活用できるのでは？」と考えました。

「農地を居場所として活用したい」「農」を盛り上げたい」という二つの思いが合い、二人は2013年「西東京農地保全協議会」を立ち上げました。それから1年。現在は西東京市内の福祉作業所で働く知的障がいのある方たちも加わり、「農業と福祉の連携」が広がっています。

「農地を居場所として活用したい」「農」を盛り上げたい」という二つの思いが合い、二人は2013年「西東京農地保全協議会」を立ち上げました。それから1年。現在は西東京市内の福祉作業所で働く知的障がいのある方たちも加わり、「農業と福祉の連携」が広がっています。

「農地を居場所として活用したい」「農」を盛り上げたい」という二つの思いが合い、二人は2013年「西東京農地保全協議会」を立ち上げました。それから1年。現在は西東京市内の福祉作業所で働く知的障がいのある方たちも加わり、「農業と福祉の連携」が広がっています。

「農地を居場所として活用したい」「農」を盛り上げたい」という二つの思いが合い、二人は2013年「西東京農地保全協議会」を立ち上げました。それから1年。現在は西東京市内の福祉作業所で働く知的障がいのある方たちも加わり、「農業と福祉の連携」が広がっています。

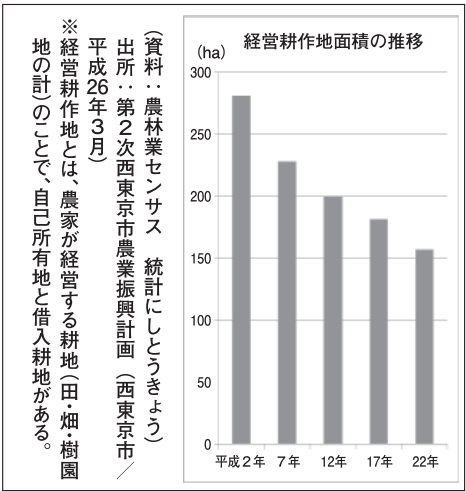
「農地を居場所として活用したい」「農」を盛り上げたい」という二つの思いが合い、二人は2013年「西東京農地保全協議会」を立ち上げました。それから1年。現在は西東京市内の福祉作業所で働く知的障がいのある方たちも加わり、「農業と福祉の連携」が広がっています。



左から岩崎智之さん、中村進さん、若尾健太郎さん



ピーマンの花 (撮影: 中村進さん)



「農地で人と人がつながるしくみづくり」
近所の緑地や畑が、いつの間にか宅地や駐車場になっていったという経験はあなたにもあると思います。農地がどのくらい減少しているのか、西東京市の経営耕作地面積の推移を調べてみると、平成22年は281.37ha、23年は157.22haと、20年で約56%に減少。毎年東京ドーム1.3個分が失われている計算になります。地域の財産でもある農地を守るためには、農家だけの問題とせず、地域と一緒に考えることが大切だと若尾さんは話します。

岩崎さんは「他の地域の人にも、農地を通して人がかわり合う試みに興味を持ってもらいたいし、真似してもらいたいです」と言います。

「農業と福祉の連携」はまだ始まったばかりですが、二人は未来を見据えて語ります。「農」には人を癒す力があります。様々な壁を取り払って、人と人がつながるしくみを作りたい。この地域の農地はなくなってしまうかもしれないけれど、それを食い止められるのも僕らの世代なんです。

わが街をもっと知りたくて

街角で歌う 伝える喜び! 伝わる感動!



和/NAGOMIさん

「未来の空へ」という曲をご存知ですか。谷戸出身の「和/NAGOMI」(高橋宏和・31歳)さんは、15歳の時にギターと出会い、作詞・作曲を独学で始めました。「未来の空へ」は20歳の時に西東京市の平和事業(広島平和の旅)で広島を訪れ、参加者全員で作詞し、和さんを中心に作曲したものです。この曲は旅に参加したみんなの平和への思いが形になったもので、様々なイベントでも歌われています。

「未来の空へ」という曲をご存知ですか。谷戸出身の「和/NAGOMI」(高橋宏和・31歳)さんは、15歳の時にギターと出会い、作詞・作曲を独学で始めました。「未来の空へ」は20歳の時に西東京市の平和事業(広島平和の旅)で広島を訪れ、参加者全員で作詞し、和さんを中心に作曲したものです。この曲は旅に参加したみんなの平和への思いが形になったもので、様々なイベントでも歌われています。

「未来の空へ」という曲をご存知ですか。谷戸出身の「和/NAGOMI」(高橋宏和・31歳)さんは、15歳の時にギターと出会い、作詞・作曲を独学で始めました。「未来の空へ」は20歳の時に西東京市の平和事業(広島平和の旅)で広島を訪れ、参加者全員で作詞し、和さんを中心に作曲したものです。この曲は旅に参加したみんなの平和への思いが形になったもので、様々なイベントでも歌われています。

「未来の空へ」という曲をご存知ですか。谷戸出身の「和/NAGOMI」(高橋宏和・31歳)さんは、15歳の時にギターと出会い、作詞・作曲を独学で始めました。「未来の空へ」は20歳の時に西東京市の平和事業(広島平和の旅)で広島を訪れ、参加者全員で作詞し、和さんを中心に作曲したものです。この曲は旅に参加したみんなの平和への思いが形になったもので、様々なイベントでも歌われています。

「未来の空へ」という曲をご存知ですか。谷戸出身の「和/NAGOMI」(高橋宏和・31歳)さんは、15歳の時にギターと出会い、作詞・作曲を独学で始めました。「未来の空へ」は20歳の時に西東京市の平和事業(広島平和の旅)で広島を訪れ、参加者全員で作詞し、和さんを中心に作曲したものです。この曲は旅に参加したみんなの平和への思いが形になったもので、様々なイベントでも歌われています。

担当者からの講座報告

夏休み親子防災講座

(8月2日・3日保谷駅前公民館にて実施)



池袋防災館で震度6を体験!

親子で協力して、水害紙芝居間違い探しゲームや、非常持ち出し品暗記クイズなどに取り組み、楽しみながら防災の知識を学び、池袋防災館での地震や火災の疑似体験を通して、災害時の心構えやどう行動すればよいかを一緒に考え実践しました。「ゲームやクイズで学べて楽しかった(小3)」、「煙の中を逃げるのが緊張した(小3)」、保護者からは、「防災グッズなど日頃の備えを見直す参考になった」などの感想がありました。